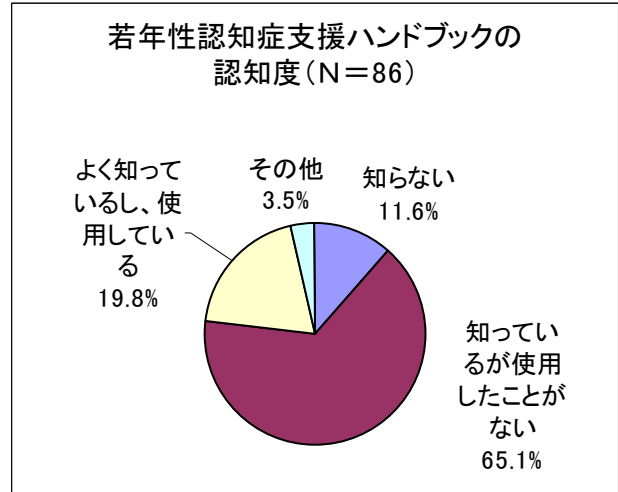
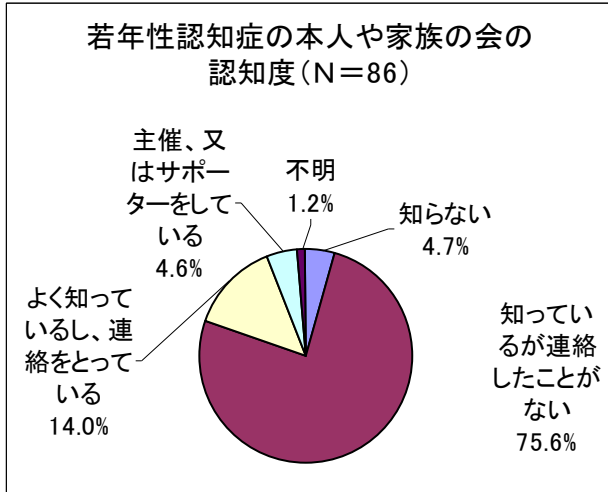


### 第3節 地域包括支援センター調査

#### 1 平成24年度調査結果

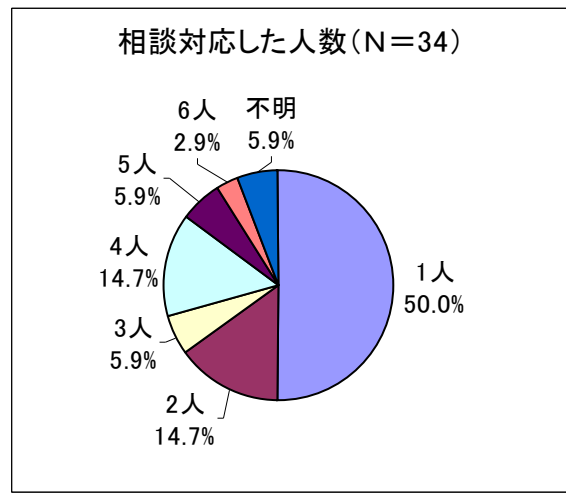
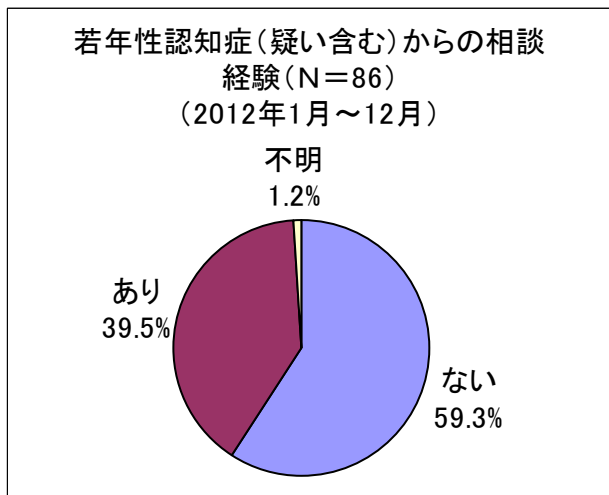
##### (1) 若年性認知症の本人や家族の会等の認知度

若年性認知症の本人や家族の会を「知っているが連絡したことがない」が、8割を占めました。また、若年性認知症支援ハンドブックは、「知っているが使用したことがない」が、7割を占めました。



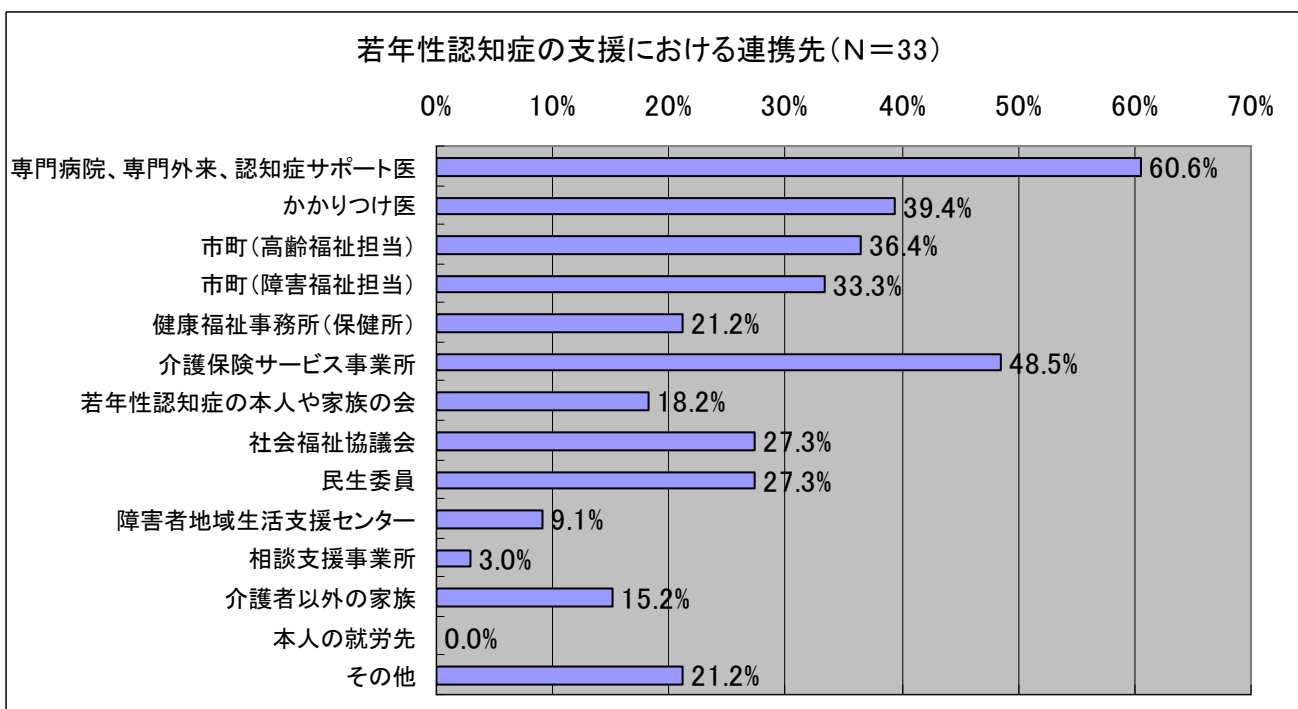
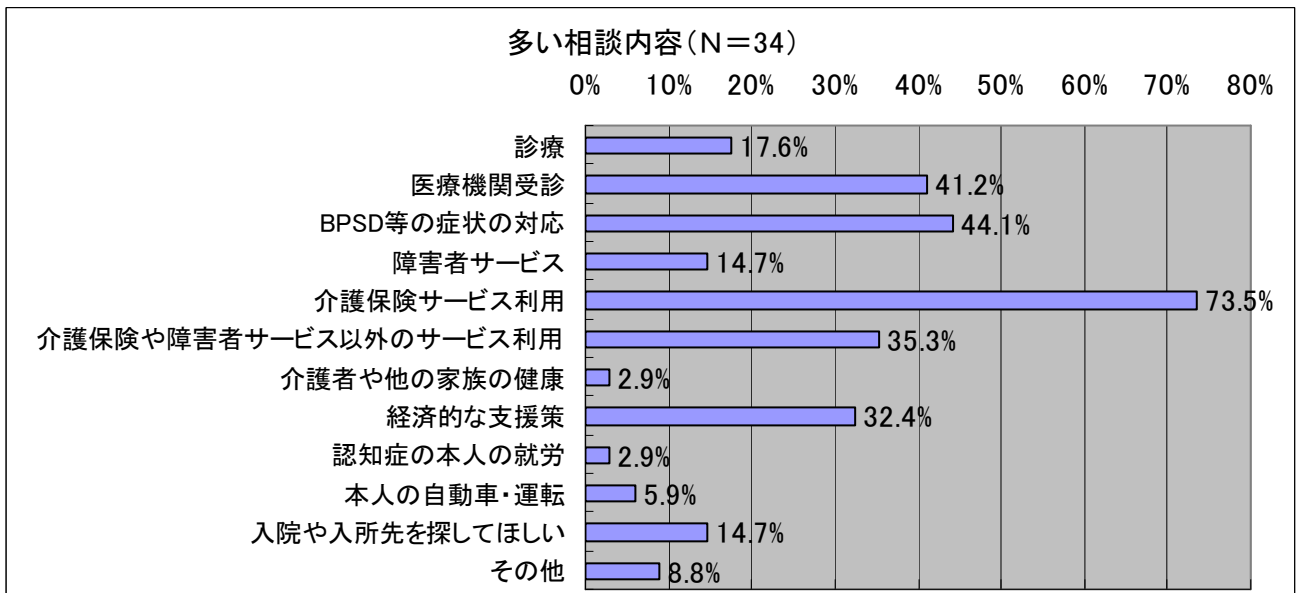
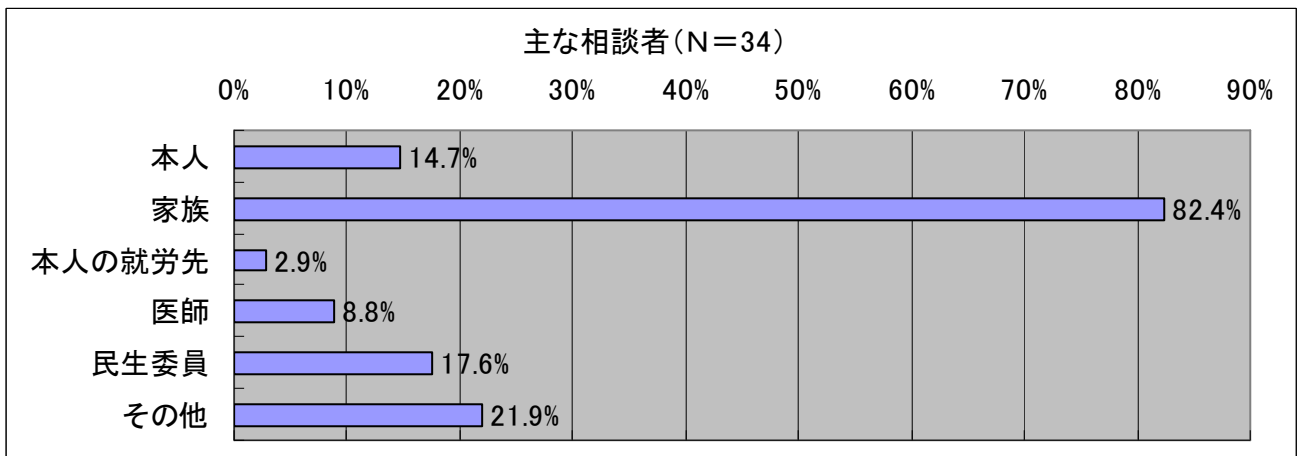
##### (2) 若年性認知症（疑い含む）の方の相談経験

若年性認知症の方の相談経験があるのは、4割にとどまりました。また、対応したことがある場合の対応人数では、「1人」が5割となりました。



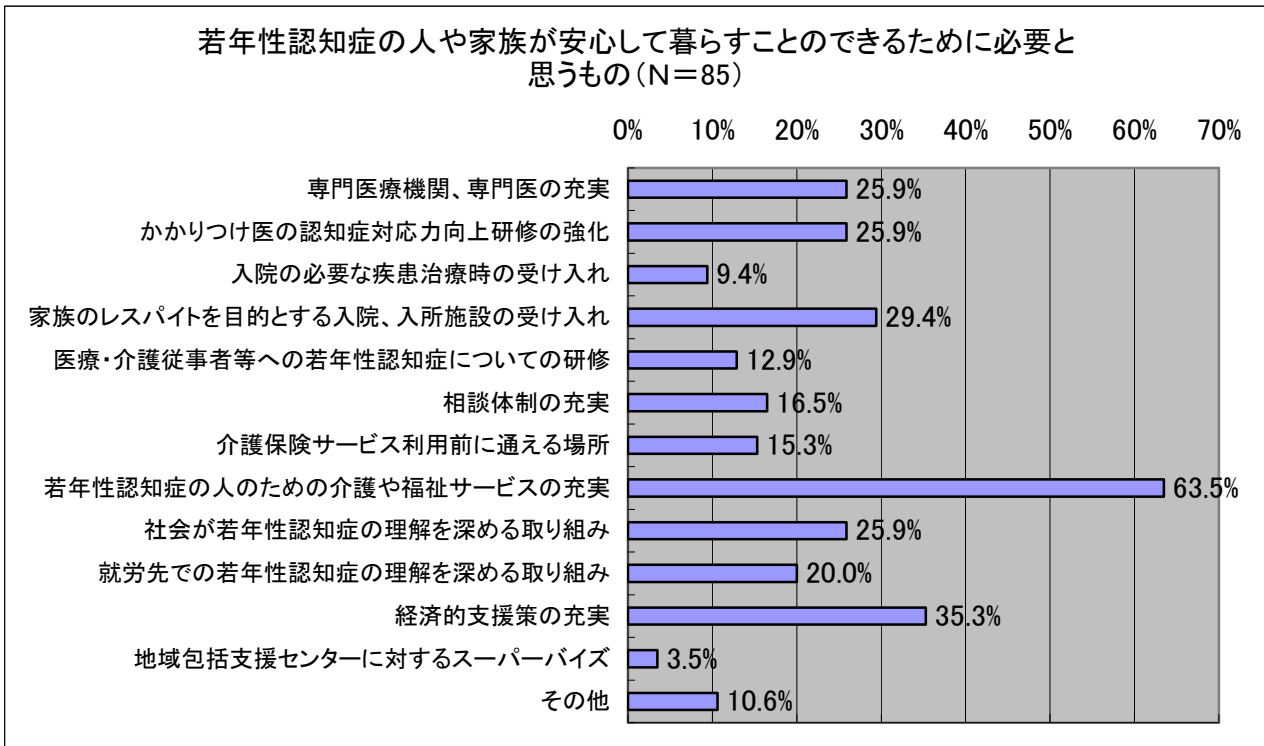
### (3) 若年性認知症の診療や支援についての相談

主な相談者は8割が「家族」であり、多い相談内容としては、「介護保険サービス利用」に関することとなりました。支援における連携先は、「専門病院、専門外来、認知症サポート医」が6割と最も多くなりました。



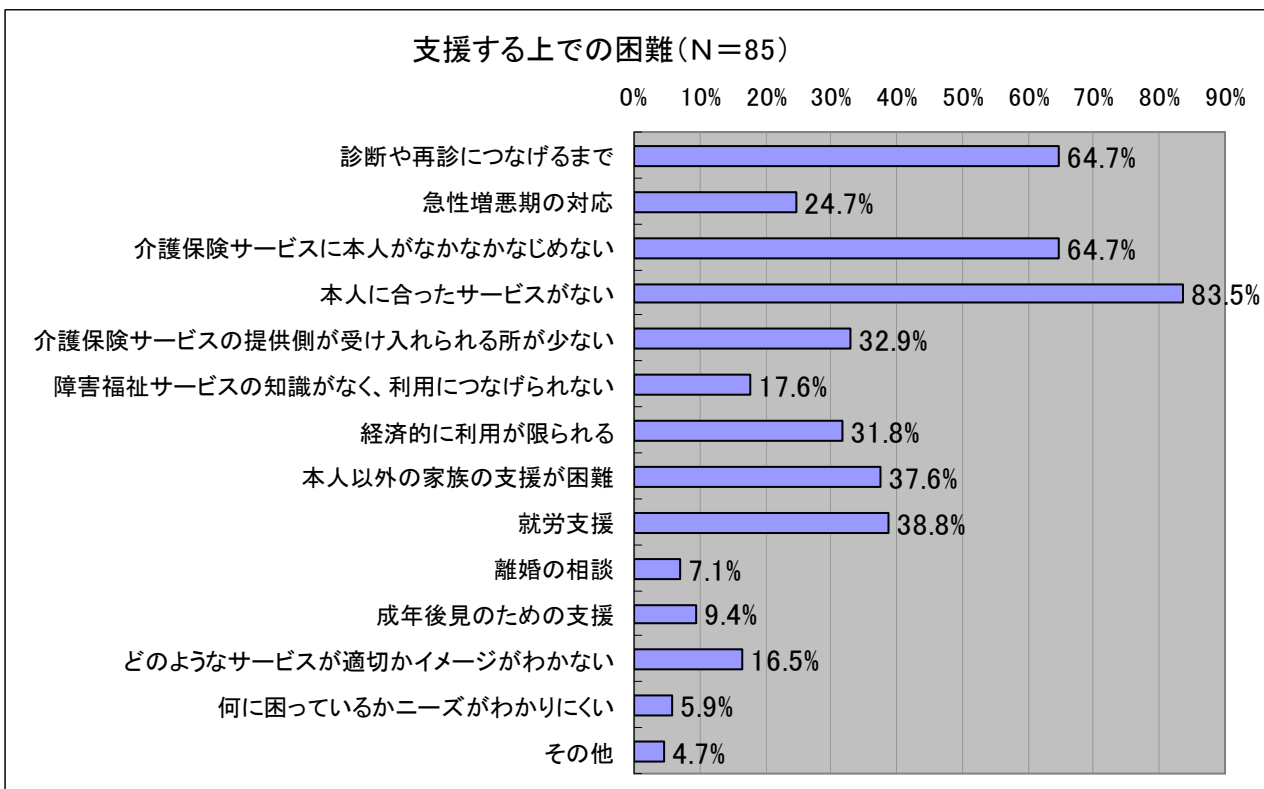
#### (4) 若年性認知症の人や家族が安心して暮らすことができるために必要と思うもの

「若年性認知症の人のための介護や福祉サービスの充実」が6割と多く、「入院の必要な疾患治療時の受け入れ」と「地域医包括支援センターに対するスーパーバイズ」が1割未満と他の項目より低くなりました。



#### (5) 支援する上での困難

「本人に合ったサービスがない」が8割と多く、「離婚の相談」と「成年後見のための支援」、「何に困っているかニーズがわかりにくい」が1割未満と他の項目より低くなりました。

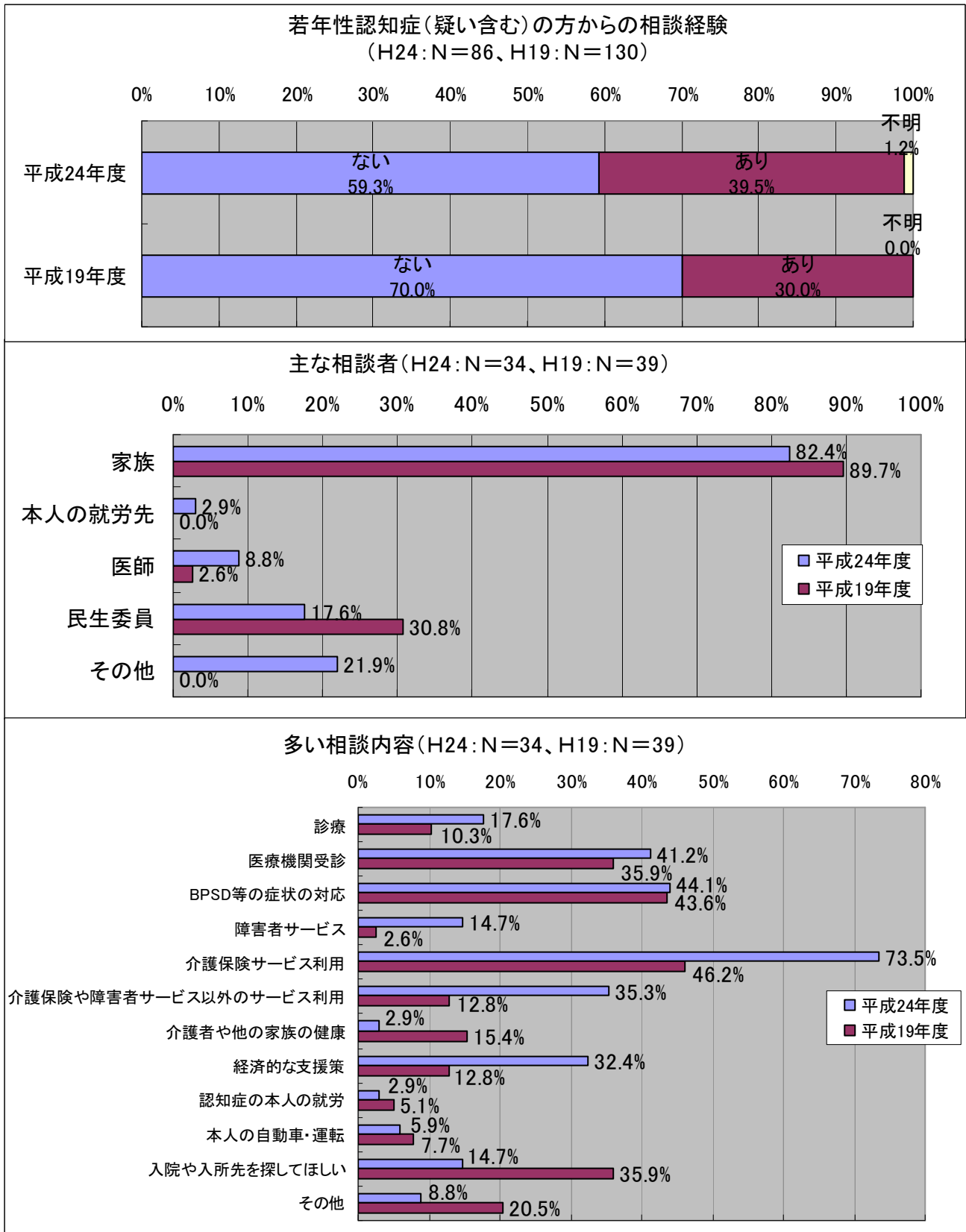


## 2 平成24年度調査結果と平成19年度調査結果との比較

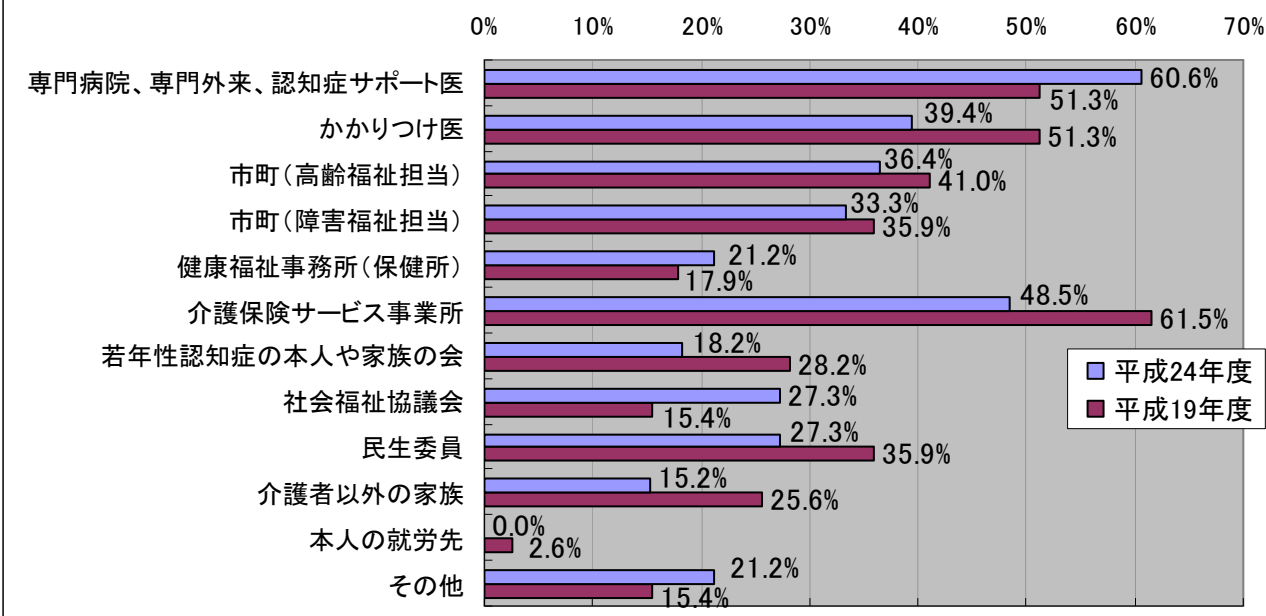
### (1) 若年性認知症（疑い含む）の方の相談経験

平成19年度と比較すると、相談経験が「あり」と回答した割合が増加しました。

また、相談内容では、「入院や入所先を紹介してほしい」「介護者や他の家族の健康」の割合が減少し、「介護保険サービス利用」と「介護保険や障害者サービス以外のサービス利用」、「経済的な支援策」の割合が増加しました。



若年性認知症の支援における連携先(H24: N=33、H19: N=39)



(2) 若年性認知症の人や家族が安心して暮らすことができるために必要と思うもの

平成19年度と比較すると、すべての項目で平成24年度の回答割合が高くなりました。

また、「若年性認知症の人のための介護や福祉サービスの充実」、「専門医療機関、専門医の充実」や「相談体制の充実」の割合が大幅に増加しました。

若年性認知症の人や家族が安心して暮らすことができたために必要と思うもの  
(H24: N=54、H19: N=69)

